田畑の草種（くさぐさ）

雀の槍（スズメノヤリ）

須藤　健一

イグサ科スズメノヤリ属の多年草。全国の芝地，畦畔，道端，また海岸から山地にかけての草地などにごく普通に生える。茎は地中にあり，地表には根出葉だけを伸ばす。根出葉は長さ７～15cm，幅２～6mm ほど。線形 - 広線形，一見イネ科のようにみえるが，葉の縁に白い長毛があり先端は細く尖らずに硬い棒状になることで区別できる。３月頃に 10 ～ 20cm ほどの花茎を伸ばし，先端に赤褐色の花が多数集まった直径 1cm 程度のくす玉のような頭花を１個，時に数個付ける。花序はイネ科のような小穂ではなく，一つずつ独立している。両性花であるが先に雌蕊が飛び出し，３個の柱頭が受粉した後に雄蕊が開く。種子には白い種枕があり，蟻によって運ばれる。

この白い種枕をエライオソームという。エライオソームには脂質やアミノ酸などが含まれアリを誘引する。誘引されたアリはその種子を巣まで運び，エライオソームの部分を食料とし，残った種子を巣の外に廃棄する。廃棄された種子はそこで芽吹き，分布を広げていく。これをアリ散布と呼ぶ。

筆者の住む住宅地の中にちょっとした公園がある。その公園は子どもたちが走り回ったり盆踊りなどで使われたりすることから大部分は真砂土が敷かれたグラウンドであり，花壇などがあるわけではない。しかし周辺の排水の為に敷設されたU字溝とグラウンドとの間の隙間には，早春から「雑草」と言われる各種の植物が芽吹いてくるのである。２月ではまだ花を付けない植物もあるが，３月に入るとスミレはもう蕾を付けた花茎を伸ばし始め，ホトケノザの重なり合った丸いロゼットの間からも花茎が伸びてくる。ヒメオドリコソウの丸い葉は，U字溝との隙間に途中で途切れながらも数メートルに渡って続いている。それらの草々はU字溝の縁に沿って向こうのほうまで，まるで草々の行列のように。

これらの草種がこのU字溝の縁に沿って行列しているのには訳がある。これらの草種の種子にはエライオソームが付属しており，それを求めてアリが運んできたのである。その後，芽を吹き種子をつけ，U字溝の縁で他の植物に邪魔もされず世代を謳歌してきたのだと思う。

その行列を眺めていると，ホトケノザやヒメオドリコソウに混じってイネ科のような細長い葉があった。同じくエライオソームを持った草種であるスズメノヤリである。まだ，花茎を伸ばしてはいないが，まもなく赤褐色のくす玉のような頭花を付けるようになる。スズメノヤリが頭花を付けるとこちらがこの「雑草」行列の先頭になる。というのも，スズメノヤリの頭花はちょうど大名行列の毛槍を思わせ，大名行列は目立つように毛槍を先頭に進んでいたのであった。それを端的に示したものが歌川広重の東海道五十三次の「日本橋」である。絵の中に大名行列の先頭が描かれているが，前の方の二人が高く掲げながら持っているのが毛槍であり，今から大名行列が通ることを知らしめていた。

スズメノヤリは花茎とその先につけた頭花がこの大名行列が持つ毛槍に似ていることから「小さな槍」ということで名付けられた。

かつての大名行列では女性たちはいなかったが，今どきのU字溝の縁の「雑草」行列ではカラフルで女性たちも大勢参加している。さしずめスミレが殿様ならぬお姫様で，ホトケノザの花の踊り子やヒメオドリコソウの笠をかぶったような女性たちも，スズメノヤリを先頭にして自分たちの行列を賑々しく知らしめているのかもしれない。